

初版作成日 : 2022/02/09

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 :

製品名称 : AL-P II 7kg/CS

製品番号 (SDS NO) : 4601-1

推奨用途及び使用上の制限

使用上の制限 : 床、防火壁、ユニフォーム、ウエス、ローリー、トラック等の洗浄

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称 : 横浜油脂工業株式会社

住所 : 横浜市西区南浅間町1-1

担当部署 : 技術開発部

担当者(作成者) : 平沢 肇

電話番号 : 045-311-4701

FAX : 0463-89-1330

緊急連絡先電話 : 045-311-4704

### 2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類、GHSラベル要素

GHS分類

健康に対する有害性

急性毒性(経口) : 区分 4

皮膚腐食性/刺激性 : 区分 1

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分 1

特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分 1 (消化管)

特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分 3 (気道刺激性)

環境有害性

水生環境有害性 短期(急性) : 区分 2

(注) 記載なきGHS分類区分 : 区分に該当しない/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

H302 飲み込むと有害

H314 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

H370 臓器の障害(消化管)

H335 呼吸器への刺激のおそれ

H401 水生生物に毒性

注意書き

安全対策

P273 環境への放出を避けること。

P260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

P261 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

P271 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

P264 取扱い後は接触部位をよく洗うこと。

P280 保護手袋/保護衣/保護面を着用すること。

P280 保護眼鏡/保護面を着用すること。

P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

#### 応急措置

P310 直ちに医師に連絡すること。

P312 気分が悪いときは医師に連絡すること。

P308 + P311 ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。

P304 + P340 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

P303 + P361 + P353 皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。

皮膚を水又はシャワーで洗うこと。

P363 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

P305 + P351 + P338 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P330 口をすすぐこと。

P301 + P312 飲み込んだ場合: 気分が悪いときは医師に連絡すること。

P301 + P330 + P331 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

#### 貯蔵

P403 換気の良い場所で保管すること。P233 容器を密閉しておくこと。

P405 施錠して保管すること。

#### 廃棄

P501 内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 :  
混合物

成分名	含有量 (%)	CAS No.	化審法番号	化管(PRTR)法
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム	14 - 18	25155-30-0	3-1949	化管法第1種
脂肪酸ナトリウム	非公開	非公開	非公開	-
ケイ酸塩	非公開	非公開	非公開	-
炭酸塩	非公開	非公開	非公開	-
リン酸塩(P2O5として)	10 - 13	非公開	非公開	-
硫酸塩	非公開	非公開	非公開	-

#### 危険有害成分

化管法「第1種指定化学物質」該当成分

直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム

### 4. 応急措置

#### 応急措置の記述

##### 一般的な措置

直ちに医師に連絡すること。

気分が悪いときは医師の診察/手当てを受けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察/手当てを受けること。

##### 吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分の戻らない時は、医師の診察/手当てを受けること。

##### 皮膚(又は髪)に付着した場合

直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。

皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること。

**眼に入った場合**

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。  
その後も洗浄を続けること。  
眼の中に全て水が行き届くように洗浄する。  
寸秒でも早く洗眼を始め、入った物質を完全に洗い流す必要がある。洗眼を始めるのが遅れると障害を増大させるおそれがある。  
眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。

**飲み込んだ場合**

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。  
気分が悪いときは医師の診察/手当てを受けること。  
飲み込んだ場合は医師の診察/手当てを受けること。  
子供などが飲み込んだ懸念がある場合、直ちに医師の診察/手当てを受けること。

**医師に対する特別な注意事項**

症状に応じた治療を施す。

---

**5. 火災時の措置****消火剤****適切な消火剤**

火災の場合は霧状水、泡、粉末、炭酸ガスを使用すること。  
この製品自体は燃焼しない。

**使ってはならない消火剤**

冷却の目的で霧状水は用いてもよいが、消火に棒状水を用いてはならない。

**特有の危険有害性**

特有の危険有害性データなし

**消火を行う者への勧告****特有の消火方法**

消火作業は、可能な限り風上から行なう。  
関係者以外は安全な場所に退去させる。  
周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。  
火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。  
周囲の設備などの輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。  
消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

**消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置**

消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。  
消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

---

**6. 漏出時の措置****人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置**

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。  
漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。  
漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する  
作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。  
風上から作業し、風下の人を退避させる。  
着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。  
こぼれた場所はすべりやすいために注意する。  
作業の際には保護具(必要に応じてガスマスク)を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。  
多量の場合、人を安全に待避させる。

**環境に対する注意事項**

漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。  
下水、排水中に流してはならない。

河川等に流出した場合は、管轄機関に連絡をする。

流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

#### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。

付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。

少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取り、密閉できる空容器に回収する。

大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。

アルカリ性の製品なので、必要があれば酸(希塩酸、希硫酸等)で中和する。

#### 二次災害の防止策

漏出時は事故の未然防止および拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

(取扱者のばく露防止)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

(注意事項)

製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しないこと。

アルカリ性なので、酸性の製品との接触を避ける。

取扱いは、屋外または換気のよい場所で行う。

取り扱い中は、飲食、喫煙を行ってはならない。

取扱いの都度、容器を密閉する。

他の容器に移し替えしないこと。

取り扱い後はよく手を洗うこと。

#### 安全取扱注意事項

屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

#### 接触回避

酸性物質との接触を避けること。

#### 衛生対策

取扱い後は接触部位をよく洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

### 保管

#### 安全な保管条件

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

施錠して保管すること。

製品記載の保管条件を読み、適切に保管すること。

日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。

容器を密栓すること。

涼しい所、換気の良い場所で保管すること。

酸と一緒に保管してはならない。

#### 安全な容器包装材料データなし

#### 特定の最終用途

特定の最終用途に関する情報なし

---

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 管理指標

管理濃度データなし

### 許容濃度

日本産衛学会の許容濃度データなし

ACGIH 許容濃度データなし

### ばく露防止

#### 設備対策

蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

#### 保護具

##### 呼吸用保護具

保護マスクを着用する。必要に応じて防塵マスク、防毒マスク、有機溶剤用の防毒マスク等を着用する。

##### 手の保護具

保護手袋、必要に応じて耐溶剤性手袋、ビニール手袋等を着用する。

##### 眼の保護具

保護眼鏡(普通眼鏡型)、必要に応じて、ゴーグル型、保護面等を着用する。

##### 皮膚及び身体の保護具

保護衣、保護前掛け等を着用する。

---

## 9. 物理的及び化学的性質

### 基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理状態：粉末

色：白色

臭い：原料臭

臭いの閾値データなし

融点/凝固点データなし

沸点又は初留点データなし

沸点範囲データなし

可燃性(ガス、液体及び固体)：燃焼しない

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界データなし

引火点：燃焼しない

自然発火点データなし

分解温度データなし

pH：9.5～11(25℃ 1%水溶液)

動粘性率データなし

### 溶解度：

水に対する溶解度：溶ける

溶媒に対する溶解度データなし

n-オクタノール/水分配係数データなし

蒸気圧データなし

蒸気密度データなし

蒸発速度データなし

密度及び/又は相対密度データなし

相対ガス密度(空気=1)データなし

粒子特性データなし

### その他のデータ

かさ密度：0.3～0.45

---

## 10. 安定性及び反応性

### 反応性

反応性データなし

### 化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

### 危険有害反応可能性

危険有害反応可能性データなし

### 避けるべき条件

避けるべき条件データなし

### 混触危険物質

酸性物質との接触を避けること。

### 危険有害な分解生成物

危険有害な分解生成物データなし

---

## 11. 有害性情報

### 毒性学的影響に関する情報

#### 急性毒性

##### 急性毒性(経口)

[日本公表根拠データ]

(直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム)

rat LD50=438mg/kg (計算値)

(炭酸塩)

rat LD50=2800mg/kg (SIDS, 2008)

(硫酸塩)

rat LD50 >10000mg/kg (SIDS, 2006)

##### 急性毒性(吸入)

[日本公表根拠データ]

(炭酸塩)

mist: rat LC50=1.2mg/L/4hr (SIDS, 2008)

#### 局所効果

##### 皮膚腐食性/刺激性

[日本公表根拠データ]

(直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム)

ラビット 中等度の刺激性 (RTECS, 2006 et al)

##### 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

[日本公表根拠データ]

(直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム)

ラビット 強い刺激性 (RTECS, 2006 et al)

(炭酸塩)

ラビット 重篤で不可逆的眼損傷性 (SIDS, Access on Jul. 2008)

(硫酸塩)

ラビット 軽度刺激性 (OECD TG405) (SIDS, 2006)

#### 呼吸器感作性又は皮膚感作性データなし

#### 生殖細胞変異原性データなし

#### 発がん性データなし

#### 催奇形性データなし

#### 生殖毒性データなし

#### 特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

##### [区分1]

[日本公表根拠データ]

(硫酸塩)

消化管 (SIDS, 2006)  
 [区分3(気道刺激性)]  
 [日本公表根拠データ]  
 (直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム)  
 気道刺激性 (ICSC, 1997)  
 (炭酸塩)  
 気道刺激性 (SIDS, 2008)  
 [区分3(麻酔作用)]  
 [日本公表根拠データ]  
 (炭酸塩)  
 麻酔作用 (SIDS, 2008)  
 特定標的臓器毒性(反復ばく露)データなし  
 誤えん有害性データなし

---

## 12. 環境影響情報

### 生態毒性

#### 水生環境有害性

##### 水生生物に毒性

##### 水生環境有害性 短期(急性)

[日本公表根拠データ]

(直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム)

藍藻類 (ミクロシスティス) EC50=0.9mg/L/96hr (EHC169, 1996)

(炭酸塩)

甲殻類 (ミジンコ) EC50=250mg/L/48hr (SIDS 2002)

(硫酸塩)

藻類 (セレナストラム) EC50=1584.583mg/L/72hr; 甲殻類 (ニセネコゼミジンコ) EC50=3150.21mg/L/48hr; 魚類 (ファットヘッドミノー) LC50=7960mg/L/96hr (AQUIRE, 2019)

##### 水生環境有害性 長期(慢性)

[日本公表根拠データ]

(硫酸塩)

藻類 (セレナストラム) NOEC=1060mg/L SO4/72hr (NaSO4換算値: 1265mg/L); 甲殻類 (ニセネコゼミジンコ) NOEC=610mg/L SO4/7days (NaSO4換算値: 728mg/L); 魚類 (ニジマス) NOEC=205mg/L SO4/31days (NaSO4換算値: 245mg/L) (AQUIRE, 2019)

#### 水溶解度

(直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム)

20 g/100 ml (25°C) (ICSC, 1997)

(炭酸塩)

0.53 g/100 ml (PHYSROP\_DB 2008)

(硫酸塩)

非常によく溶ける (ICSC, 2005)

#### 残留性・分解性(BOD・COD)

(直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム)

急速分解性あり(p-n-ドデシルベンゼンスルホン酸ナトリウムのBODによる分解度: 73% (既存化点検) から類推)

#### 生体蓄積性

(直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム)

log Pow=1.96 (PHYSROP\_DB, 2005)

#### 土壌中の移動性

土壌中の移動性データなし

#### 他の有害影響

オゾン層への有害性データなし

---

### 13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報  
廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

---

### 14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号またはID番号：該当しない

正式輸送名：該当しない

分類または区分：該当しない

容器等級：該当しない

IMDG Code (国際海上危険物規程) に該当しない

IATA 航空危険物規則書に該当しない

環境有害性

MARPOL条約附属書III - 個品有害物質による汚染防止

海洋汚染物質 (該当/非該当): 非該当

特別の安全対策

容器の破損、漏れがないことをたしかめる。

荷くずれ防止を確実に行う。

該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。

直射日光を避ける。

水漏れ厳禁。

横積み厳禁。

夏場の輸送時においては、熱い鉄板、地面等の上に直接置かないこと。

輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。

バルク輸送におけるMARPOL条約附属書II 改訂有害液体物質及びIBCコード

有害液体物質(Y類)

直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム(Y-061)

有害液体物質(Z類)

炭酸塩(Z-082); 硫酸塩(Z-157)

国内規制がある場合の規制情報

船舶安全法に該当しない。

航空法に該当しない。

---

### 15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

特化則に該当しない製品

有機溶剤等に該当しない製品

労働安全衛生法に該当しない。

化学物質管理促進(PRTR)法

第1種指定化学物質

直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(アルキル基の炭素数が10から14までのもの及びその混合物に限る。)(15%)

消防法に該当しない。

化審法

優先評価化学物質

直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム(政令番号140 人健康影響/生態影響);

脂肪酸ナトリウム(政令番号172 生態影響)



---

## 16. その他の情報

### 参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN  
Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 21th edit., 2019 UN  
IMDG Code, 2018 Edition (Incorporating Amendment 39-18)  
IATA 航空危険物規則書 第62版 (2021年)  
2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)  
2021 TLVs and BEIs. (ACGIH)  
JIS Z 7252 : 2019  
JIS Z 7253 : 2019  
2020 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)  
Supplier's data/information

### 責任の限定について

#### ※注意

安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データ (NITE 令和2年度(2020年度))です。